

平成20年度 福岡県立光陵高等学校 学校自己評価表

学校運営方針

地域を愛し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備え、心身ともに健康で、誠実にして自主性・創造性に富んだ人間の育成を図るため、光陵高校の学校力の向上を目指す。

1 「安心・安全な学校づくり」 2 「鍛え伸ばす学校づくり」 3 「生きがいのある学校づくり」

年度重点目標

- たくましさと思いやりの育成
健康でたくましい身体を作るとともに、良好な人間関係を築くことのできる、思いやりを持った豊かな心を育てる。
- 自立する心の育成
自らを律することのできる強い意志を育てるとともに、規律やマナーを重んじて大人としての行動ができる力を育てる。
- 自ら学ぶ意欲の育成
自己を向上させるために、自ら学習計画を立て意欲的に学習する態度を育てる。
- 夢を実現する力の育成
自己の生き方を考え、夢を持って進路実現に向けて積極的に行動できる実践力を育てる。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
教 務	生徒一人ひとりが、意欲を持って学習や部活動に取り組み、資質を最大限に伸ばすことで心豊かな創造者になれるように学びの場を提供する。 (鍛え伸ばす教科指導の実践・夢を育てる教科指導の実践)	1 教科指導力の充実、向上 (1) 生徒の実態に応じた適切な教科指導力の充実・向上を図る。	B	A	
		(2) 挨拶や時間厳守など授業規律の確立をはかり、生徒との信頼関係に基づいた教科指導を実践する。また、学びやすい学習環境の整備をすすめる。	A		
		(3) 新教育課程を基にした3年間を見通した教育実践を定着させる。	B		
		(4) 生徒理解のための研修の実施を行う。(授業評価による点検、分析、評価、授業改善の実施)	A		
	2 出席率の向上をはかる。特に9月を強化月間とし、体育祭開きの生活リズムのスムーズな切り替えに努める。	B	B		
	3 総合的な学習の時間(Shining Project)改善のための研究を進める。	B	B		
	4 生徒基本情報の集約、データベース化を推進する。	A	A		
研 修	本校生徒の実態に応じた教科指導法(光陵方式)の確立につとめるとともに、全教員の教科指導力の向上を目指す。	1 教科別研修会を学期毎に実施し、授業改善を図る。	A	B	
		2 年間2回『公開授業週間』を設定し、教科を越えて相互授業参観・相互批評が出来るようにする。	A		
		3 例年実施される研究授業研修大会の内容を再検討し、充実したものとなるよう工夫する。	A		
		4 授業評価をアンケートを1学期中に実施し、集計結果を早期に提示し、教員が授業改善(「わかる授業」の実践)に向けた取り組みを行えるようにする。	B		
	本校の抱える今日的な課題の解決に向けて、有意義な職員研修を計画・実施する。	1 専門性の高い講師を招聘し、講演会や事例研修会を実施する。	A	B	
		2 研修会を通して本校の抱える課題の明確化を図るため、実施前後の意識調査やアンケートなどを実施する。	B		
		3 図書部と連携して、課題解決に資する書籍の購入を推進する。	C		
	教員の自己啓発と資質向上のため、校外研修会への積極的参加を促す。	1 校外で開かれる研修会・講演会を積極的に紹介し、参加を促す。	A	B	
		2 人権・同和推進委員会と連携して、研修会・講演会への参加者を増やす。	A		
		3 企画・運営部と連携し、生徒理解の一環として中学校訪問を計画的に実施する。	C		
	研修成果について、全職員への啓発を図る。	1 各研修会の報告の場を設け、他教員への啓発を図る。	B	B	
		2 各研修会の実施記録や感想を『光陵新聞』『光陵紀要』に掲載する。	A		
3 研修部関係の資料の保管場所を確保し、閲覧しやすい状態にする。		B			
情 報	校内LANの充実を図り、コンピュータ使用環境の整備を促進する。	1 成績処理における小票・通知票印刷による担任等の事務処理軽減を図る。	A	A	
		2 データ管理及び保護のため、個人ユーザ名・パスワード利用への転換を図る。	C		
	教科情報の指導計画の検討を進め、教科情報が学力向上の一助になることを目指す。	1 情報の実践力・科学的理解・情報化社会に参画する態度の育成という三つの観点をもとに、学力向上の材料となる教材の開発を図る。	A		
ホームページ更新のシステムを構築する。	1 部活動最新情報の更新を適宜行える体制作りを整備する。	A	A		
	2 30周年に向け、ホームページのリニューアルの計画を進める。	A			
生徒指導	1 生徒状況の把握とマナーの向上 (挨拶、時間厳守、規範意識の高揚)	(1) 校門等での挨拶運動と声かけの実施。	A	A	
		(2) 職員室等の入退室の在り方指導。	A		
		(3) あらゆる行事毎、5分前行動の奨励。	B		
		(4) 約束・マナーについて、全職員の共通認識に立った指導の徹底。	B		
		(5) 校内外の巡回指導を徹底し、生徒の状況把握に努める。	A		
		(6) 生活規範や自分の在り方・生き方について考えさせる機会を増やす。	B		
	2 リーダーの育成	(1) 生徒会研修会の実施。	A	A	
		(2) 部活動生集会の実施。	B		
		(3) 生徒実行委員会を中心とした各行事の推進。	A		
	3 保護者・地域との連携強化	(1) PTA生活委員会活動や地域活動への積極的参加。	B	B	
		(2) 地域清掃活動の実施。	A		
	4 各分掌との連携強化	(1) 各学年の気になる事象や生徒の情報共有化を図る。	B	B	
		(2) 教科指導、遅刻指導、カウンセリング、いじめ問題等に各分掌と連携して取り組む。	B		
	進路指導	自己の進路について主体的に考え、行動することが出来る生徒を育成する。	1年 ①学習実態を把握、分析し、それに基づいた個人面談をおこなう。	B	A
			②類型選択が適切に行えるよう教務部、学年と連携し指導する。	B	
			③職業観を育成する講演会等を実施する。	C	
1年：自己理解 自己の能力・適性を理解し、それを活かす意欲を持つ。		2年 ①進路相談発見フェスタへの全員参加。	A		
		②夏季休業期間中に大学等のオープン・キャンパスに参加させる。	A		
		③3学期に模試、面談、ガイダンスを実施し、進路実現に向けてのモチベーションを高める。	A		
2年：調査研究 学問内容および進学先の調査・研究を行う。		3年 ①自学・自習ができる環境を整備する。	A	A	
		②面接・小論文指導を計画的に取り組む。	A		
		③ガイダンス、研修会を通して生徒、教員が情報を共有する。	B		
		④希望者課外を積極的に実施し、早期に受験体制を作る。	A		
3年：進路実現 進路実現に必要な能力を育成する。					
保健環境	1 健康管理の意識向上と健康教育の推進	1 あらゆる機会を利用して、心身の健康を保持する能力及び態度を育てる保健指導を行い、保健室来室者数の減少につなげる。	B	B	
		2 職員向けに、適宜「保健室通信」を発行し、情報を提供する。	B		

	2 健康情報の共有化と教育相談体制の充実	1 「個人カルテ」を活用し、担当教員との情報交換会を開催する。 2 専門家による研修会を早期に開催し、特定の症状のある生徒への具体的な対応法について共通の認識を持つ。	A B	A			
	3 保健委員会の充実	1 全校生徒に向けて、「光陵健康応援団」を毎月1回発行する。 2 研究発表のテーマを1学期中に決定し、充実した内容にする。	A B	A			
	4 環境美化に対する生徒の意識向上	1 LHRなどを活用して、生徒の美化意識を高める取り組みをする。 2 美化コンクールまたは、それに代わる取り組みを行い、清掃に対する意識の向上を図る。	C C	C	A		
	5 美化活動の活性化による教育環境の整備	1 全職員及び生徒による清掃活動を徹底するとともに、月ごとの重点清掃目標を定め、学習環境の整備に努める。 2 レインボープロジェクトを推進し、学校全体の緑化を図る。	B B	B			
	6 美化委員会の充実	1 全校生徒に向けて、「美化だより」を毎月1回発行する。 2 ペットボトルのキャップを集め「世界の子どもにワクチンを」のキャンペーンに参加することで社会貢献に資する。	B A	A			
	図書	1 学習情報センター機能の強化	1 昨年度に引き続き蔵書の見直しを図り、資料の質と鮮度を高めるとともに図書の開架閉架を選別する。 2 教科の購入希望調査をみつきし、授業に密着した選書に努める。 3 機器機材・資料・教室利用等の現状を把握し今後の図書部における視聴覚部門のあり方を見直す。	A A B	A A	A	
2 読書の推進 (読書機会・意欲・質の向上)		1 学年と連携しLHR等を使った年1回程度のクラス読書を実施する。 2 「リブレリアつうしん」の発行(年10回)等広報活動を強化し、読書情報の提供に努める。	B A	B			
3 図書委員会の活性化		1 カウンター当番などの仕事を通して責任感と連帯感を持たせるとともにリーダーの育成を図る。	A	A			
企画・運営	1 儀式や行事の円滑な運営	1 年間の行事計画を元に、1年間に取り組むべき企画運営担当の仕事を確認し、内容の充実を図る。 2 儀式や行事において関連の分掌と連絡を密にし、円滑な運営ができるようにする。	B A	A			
	2 中学校や地域への積極的な情宣活動	1 中学生体験入学の内容を見直し、本校の良さをアピールできる充実したものに刷新する。 2 研修部と連携し、授業見学を取り入れた中学校訪問を行うことで生徒理解を深める一助とすると共に、中学校との関係をより密にし、信頼を得る。	A A	A	A		
	3 PTA・同窓会活動の更なる活性化	1 学期に一度、公開授業や保護者会などを設定することで、保護者と連携の取りやすい環境を作る。 2 PTA・同窓会活動が活発に行えるように配慮し、職員の協力も得て、総会への参加者を10%増加させる。 3 生徒のキャリア教育の為に協力を要請する。	B B C	B			
第1学年	1 3年間の高校生活の基盤を固め、はじめと活力ある学年づくりを進める。そのために、しっかり叱り、しっかり褒める。生徒との信頼関係構築のため、生徒理解に努め、親身になって指導にあたる。	1 学校生活の場面場面で元気な挨拶を徹底させる。 2 時間厳守、名札着用を徹底させる。 3 指導者と生徒のはじめをつけた指導を行う。(言葉遣い、態度)	B A A				
	2 基本的な生活習慣をしっかりと身につけさせるため、学年団一丸となって、生徒指導にあたる。	4 清掃、学習環境の整備を徹底する。 5 学年掲示板を活用し、掲示教育を推進する。	B A				
	3 3年間の学習の基盤となる、基礎・基本の定着を目標に、学習活動、学習指導に取り組む。	6 授業と朝課外を充実させる。 7 予習、復習、課題の提出を徹底させ、学習での学習習慣を定着させる。	A A	A	A		
	4 生徒一人一人の人格、個性を尊重すると共に、お互いの価値観や人間性を尊重することにより思いやりをもってお互いを支え合うことができる学年作りを進める。	8 学習と部活動を両立させる。 9 生徒の夢を育み、適切な進路、類型選択ができるように指導する。 10 短いスパンで、生徒の理解度を把握し、理解できるまで指導する。 11 生徒観察を徹底し、前向きに高校生活に取り組むことができるクラス作りを進める。 12 生徒、保護者との信頼関係を構築する。学年通信を発行する。 13 生徒が抱える問題や悩みについて早期発見・早期対応に努める。 14 出席率99%、退学、特別指導0名、取調賞110名以上、外部模試平均偏差値50以上、部活動加入率70%以上を達成する。	A A B A A A B				
	第2学年	1 1年次で修得した各教科の基礎基本的な学力を更に深化させ、次年度の進路実現に繋げる。	1 調査平均点80点以上を12名、4科目欠点保持者0名を目指す。 2 外部模試の平均偏差値国語50、数学50、英語50を目標とする。	C C			
		2 クラスや学年のリーダー指導を通して、次期生徒会運営を担う生徒を育成する。	3 偏差値60以上を英語40名、数学20名、国語20名、3教科20名を目指す。 4 試験結果の上位30傑一覧掲示。個人面談年5回の実施。	C A			
		3 基本的な生活習慣の確立と主体的に行動できる生徒の育成を目指す。	5 『総学』を利用した進路実現・自己啓発のサポートをはかる。 6 進路意識を大学訪問・進学説明会(校外)への参加により高揚させる。 7 課題未提出者を出さないように、教科担当者と連携をはかる。 8 成績等を自宅に送付し、確実に保護者に情報が伝わるようにする。 9 学校行事・学年行事を通して、リーダーシップを育成する。 10 完全出席皆勤100名以上を目指す。 11 携帯電話の使用については是々非々対応する。 12 保健室と連携をはかり、心の悩みをいち早くキャッチする。	A A B A A C A A	A	A	
		第3学年	1 生徒全員の希望進路実現を目指して、教科指導の充実をはかり、自ら学ぶ姿勢を育成する。	1 センター試験受験者200名、国公立30名、西南45名、福大130名達成 2 綿密な個人面談を実施して、進路指導をサポートする。 3 保護者に対して有益でタイムリーな進路情報を発信する。 4 合宿勉強会や放課後自学自習教室の実施と特別講座の開講。 5 面接、小論文対策と推薦入試の適切な対応をはかる。	A B A A A	A	
			2 生徒会組織のリーダーシップが発揮できる環境作りを支援し、学校行事を成功裡へと導く。	1 行事前後の学年集会で団結力を高め、随時、指導助言を行う。 2 リーダーシップ発揮の場として光陵祭や体育大会を設定する。 3 行事を通して得られた団結力が受験に繋がるように導く。 4 学年独自のレクリエーションを企画し、クラス・学年の親睦を深める。	A A B A	A	A
			3 社会に通用するマナーを習得させ、光陵生としての自覚と誇りを育成すると同時に、他を思いやる気持ちの育成と人権意識の啓発をはかる。	1 無遅刻・無欠席・無早退が進路実現の生命線を常に意識させる。 2 出席皆勤者数100名、3カ年連続皆勤者60名以上を目標とする。 3 面接試験を意識したマナー向上を学年一丸となって指導する。 4 教員がカウンセリングマインドを身につけ、生徒の良き相談相手となる。 5 生徒の情報交換を密に行い、悩みを抱える生徒に適宜対応する。 6 結婚・就職差別を科学的認識に立って考えるよう指導する。	A A B A A A	A	